

地域で支えあう健やかで 心のかよふまちづくり

社会保障や医療、児童・家庭福祉、高齢者の総合的な福祉サービスの実施などにより、市民が生涯にわたり健康で安心して生活を送れる、いきいきとした地域社会を築いていくため、



▲ 人権啓発活動

- ・生活保護者の自立支援に向けたキャリアカウンセラーの配置
- ・安心して子育てができる多様な子育て支援サービスの充実
- ・高齢者の孤独感の解消や、自立を支援する通所サービス
- ・市民の健康増進を支援する

各種検診や、健康相談などの保健事業の充実
・特定不妊治療費の一部助成
・人権啓発活動・教育などに取り組みます。

安全・安心な暮らし のあるまちづくり

自然災害から市民の生命・財産を守る防災や、交通事故防止対策など、市民の安全で安心して生活を守ることが、行政の最大の使命であることから、



▲ 秋の交通安全出発式

- ・防災意識啓発のためのコミュニティFMによる放送
- ・急傾斜地崩壊危険箇所等の土砂災害の未然防止対策
- ・管理放棄された老朽家屋の

実態調査
・各種交通事故防止活動への支援
などを実施してまいります。

快適な生活を支える まちづくり

市民が心地よく暮らし、住み良い都市基盤を整備するため、



▲ 整備された市道新川田崎線

- ・廃止路線代替バスやコミュニティバス、市街地巡回バスの運行による総合交通対策
- ・主要幹線道路や足元道路、橋梁、排水路の整備
- ・老朽化した舗装や側溝の修繕による交通事故の防止及び生活環境の整備

・都市公園等の施設改修による憩いの場の提供
などを実施してまいります。

市自然と環境を大切に するふるさとづくり

環境にやさしい循環型社会の確立や、環境生態系の保全、地球温暖化対策に取り組む必要があることから、



▲ 浜田海岸でのウミガメ放流

- ・循環型社会の実現に向けて、生ごみ処理機器や竹チップ購入費助成
- ・水産資源を保護・培養するため、藻場の保全活動に対する支援
- ・環境負荷の少ない低公害車の公用車導入
- ・太陽光発電システムの導入に対する補助
- などに取り組んでまいります。

未来の郷土を担う ひとづくり

子どもたちが安全で安心して学べる教育環境を整え、地域の将来を担う人材を育成するため、



▲ ALTによる英語授業風景

- ・小・中学校や鹿屋女子高の施設耐震化促進による教育環境の充実
- ・学校再編に伴う、花岡小中一貫校の校舎改修
- ・障害の有無によらず、同じ場で学べる環境づくりのための特別支援教育支援員の配置
- ・英語指導助手や英語指導講師による英語教育の充実
- ・国際交流員による交流事業
- ・赤ちゃんと保護者が絵本を介してふれあうブックスタート事業

・象嵌装大刀を活用した古墳見学ツアーの実施や、大隅半島の文化・歴史の情報発信
などに取り組んでまいります。

人・モノ・情報を結び、 付加価値の高い ネットワークづくり

大隅半島全体が浮揚・発展するためには、官民による広域的なネットワークの更なる協力体制の充実や、インフラ



▲ 農業体験をする関西地区の修学旅行生

- 整備による交通ネットワークの構築、大隅地域の特性を市内外に発信するネットワークづくりが不可欠であることから、
- ・東九州自動車道、大隅縦貫道及び国道504号の整備促進
 - ・南九州の物流拠点港である志布志港の整備促進
 - ・薩摩・大隅半島を結ぶ山川・根占フェリーの利用促進
 - ・錦江湾横断道路（桜島架橋）の実現に向けた国・県へ

の要望活動

- ・「かのやばら園」を核とする、観光資源のネットワーク化による誘客促進
- ・修学旅行、民泊型教育旅行、体験学習などのグリーンツーリズムの受入体制の整備
- ・高隈山の登山・トレッキングルート整備
- ・大隅周遊観光ルートの開発などに取り組んでまいります。



▲ 風光明媚な観光スポットの荒平天神

なお、これらの取組を推進するに当たっては、地域が一体となって取り組むことが重要なことから、大隅総合開発期成会を中心に、国や県、関係機関等との連携を強化してまいります。

むすび 夢をカタチに

以上、平成25年度の市政運営について、所信の一端を述べましたが、冒頭でも申し上げましたとおり、私は市長に就任して4年目を迎えています。

この節目の年を、「元気なかのやづくり」の集大成となるよう市政の運営に努めてまいります。

また、鹿屋市総合計画の後期基本計画が平成25年度にスタートすることから、各種施策を計画的・体系的に推進し、総合計画に掲げる将来都市像「ひと・まち・産業が躍動する健康・交流都市 かのや」の実現に向け、全力を尽くしてまいります。



▲ 3月議会で施政方針を述べる嶋田市長

最後になりますが、現在の社会経済情勢は大変厳しく、この状況が急激に好転するのは考えにくい状況にあります。

しかし、鹿屋市の先人が築き上げてきた文化・歴史、そして志をしっかりと未来へつなぐ責任が私たちにはあります。

これまで私が唱え続けてまいりました「元気なかのやづくり」の実現に向けて、「夢をカタチに」するために、確固たる信念を持って市民の皆様と共に歩んでまいりたいと考えておりますので、市民の皆様方より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。